

道 建 労 協 機 関 紙



Council of Road Construction Worker's Unions(C.R.U.)

道路建設産業労働組合協議会

〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 (NIPPO 労働組合内)

電話03 (3563) 6744

URL: <http://www.doukenroukyou.com>

2012年 年頭挨拶

道建労協加盟単組の組合員の皆さまならびにご家族の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

新春をご家族の皆さまと共に明るくお迎えのこととお慶び申し上げます。また、被災地の皆さまにとって、復興への力強い年となりますことを心から祈念いたします。

年頭にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、自然災害の猛威を思い知らされた年でした。東日本大震災では地震、津波そして原子力発電所の事故と過去に経験のない大惨事に見舞われました。また、9月には近畿地方を中心とした台風災害も発生しました。

この様な中で、「なでしこジャパン」がサッカー女子W杯優勝の快挙を達成しました。チーム力を最大限に発揮し、最後まで諦めない姿勢に震災で落ち込んでいた日本に大きな勇気と希望を与えてくれました。

我々の建設産業は公共事業予算の削減傾向の流れの中、震災関連で政府建設投資は伸びているものの、被災地域以外の地域では予算の一部執行停止がなされ、秋に解除されたものの総じて厳しい状態が続いています。民間設備投資も若干の上向き傾向が見えてきたところに大震災が発生し、多くの企業が被災しました。また、記録的な円高等により国内設備投資は先行き不透明感が強まっています。ただし、震災を機に道路の重要性が改めて認識され、我々道路建設産業の重要性和社会的使命、責任は大きくなっています。

道建労協では、加盟単組組合員の皆様に、より道建労協の活動を知ってもらおうと、ホームページを充実させ、より身近な存在を目指して活動しています。

土曜開所運動では多忙の中、アンケートに回答いただき、ありがとうございました。開所率、休日取得率ともなかなか進展していませんが、建設産業労懸とともに、今後も継続して取り組んでいきます。私達の最も重要な課題は「総労働時間の短縮」であります。その為にも、長時間労働の要因となる障害を一つずつ発見し取り除いていき、ワークライフバランスの実現に向けて進んでいきましょう。

本年も私達は一步ずつではありますが、「土曜開所推進運動」等の活動を通じ魅力ある道路建設産業を実現するために活動を進めていきますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

最後になりますが、本年が道建労協加盟単組組合員の皆様にとって充実感溢れる年となりますことを心からお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。

道路建協 議長 山下 剛



企業訪問・関係団体訪問

道建労協では、11月土曜開所強調月間の協力要請を各加盟単組企業や関連団体へ行っております。今回の加盟単組企業訪問におきましても各社社長と面談し、全社的な活動として取り組んでいただくよう要請をしました。どの企業におきましても休日取得や時短への課題は共通しており、全ての企業から快諾をいただきました。

今後も労使が一体となった取り組みを展開していきたいと思っております。なお11月土曜開所強調月間は、建設産労懸が共同プレス発表を行うなどしており、産業挙げての取り組みとなっております。

NIPPO



三井住建道路



東京舗装工業



フジタ道路



大成ロテック



大林道路



前田道路



道建協



日合協



厚生労働省



共同プレス発表



三井住建道路労働組合

酒見 博之

「何事にも備えあれば憂いなし」言うは易しだが、その努力は必要だ。

世界的に見ても、地震、豪雨、洪水などが多発している。温暖化による環境問題、異常気象の進行が心配だ。それに合わせるようにリーマンショックの「100年に1度」の不景気から持ち直した矢先、今度は欧州の金融危機など経済も天変地異の様相を呈してきた。

我が国では去年3月の東日本大震災による大災害、さらに福島第一原発の事故など、歴史に残る災害の年であったと言える。

21世紀の今、あまり神がかった話は通用しないのだが、タイ・バンコクの大洪水で道路の上を舟で移動する写真を見て、現代版のノアの箱舟ではないかと思えてしまう。

天変地異により地球上の生物が絶滅したり、ごく僅かに残ったものが再び発展を繰り返すなど、古来から様々な天変地異説、神話が生まれ広がってきた。天地創造やノアの箱舟なども天変地異を背景に生まれた物語、伝説である。

「天変地異」... 自然界に起こる予想外の大災害を指すが、天と地が動乱し激変の様相を感じさせる言葉である。

「天変地異」

天変地異により地球上の生物が絶滅したり、ごく僅かに残ったものが再び発展を繰り返すなど、古来から様々な天変地異説、神話が生まれ広がってきた。

フリーウェー

地協のない地域の交流会

四 国

2011年10月26日（水）に高松シティホテルにて、四国地区交流会が開催されました。議題は時短・休日取得を中心に行われ、各単組の取り組みを発表しながら意見交換しました。基本的には各単組本部での活動を受けて展開しており、実態といかにマッチさせていくかに苦心している状況ではありますが、時短・休日取得に向けての意識は深まっているということでした。また、相変わらず若い社員の配属が少なく、次の世代へ引き継ぐどころか育てる環境にもないという問題もあり、地方での活動の難しさを改めて認識することとなりました。懇親会では参加者同士が意気投合する場面も見られ、楽しい時間となりました。

前田道路労働組合 清田 大輔



中 国

2011年10月27日（木）広島市内のホテルセンチュリー21にて「中国地区交流会」が開催されました。

5単組15名が参加したうえ、本部より山下議長、高島副議長、服部事務局長にも参加いただき、活発な意見交換が行われました。

参加者は、土曜閉所強調月間の取り組み、時短・休日取得の状況の他に人員配置、若手社員の離職率の増加など、各単組の抱える問題点について意見を出し合うとともに、問題解決の材料となるような意見も出し合いました。

懇親会は、普段触れ合うことの無い各単組同士がいろいろな意見を交換する場となり、懇親を深めました。



NIPPO労働組合 山口 高史

九 州

2011年10月28日（金）にアイピー福岡にて九州地区の地域交流会が開催されました。

各単組の皆様から道建労協の活動記録や取り組み、6月の土曜閉所アンケート結果についての報告、時短や休日取得に対する取り組み等について、意見交換を行いました。

各単組での工夫や改善策を知ることができ、組織の違いや職種によって様々な問題点や意見がある事がわかりました。

また九州地区については特に女性の方が多く参加されている事もあり、女性の視点から労働環境や制度の改善についても意見交換を行いました。

女性の観点から屈託のない意見や要望等をいただき、有意義な交流会になったと思います。

会議終了後の懇親会では、普段交流の少ない各単組の皆さんとも交流を深めることができ、和やかな雰囲気で行うことができました。

今後も地域交流会を続けていきたいと思います。参加者の皆様、どうもお疲れ様でした。

大林道路職員組合 畑 大輔



地協活動報告



関西地協

2011年9月15日に、エルおおさかにて関西地協第22回定期大会が開催されました。

来賓として、本部より山下議長が出席され、道建労協本部の活動、他地協の活動状況の説明を頂きました。

各地協とも厳しい環境の下、地道な活動を行っており、関西地協としても現状を維持しつつも、新たな活動を模索していかなければと痛感しました。

今期は今野副議長（三井住建道路労働組合）、西村副議長（大成ロテック社員組合）が退任され、新たに栗津副議長（三井住建道路労働組合）、松村副議長（大成ロテック社員組合）、喜志幹事（大成ロテック社員組合）、三宅幹事（NIPPO労働組合）に加わって頂きました。

前期に引き続き、井本議長のもと新メンバーで益々関西地協を盛り上げて行きたいと思っております。

関西地協 事務局長 海保 潤一郎（NIPPO労働組合）

北海道地協



2011年10月14日（金）に、ノホテル札幌にて北海道地協定期大会が開催されました。加盟5単組（NIPPO、前田、大成、大林、三井住建）22名、に加え、本部から高島副議長に出席していただきました。



東日本大震災の影響や北海道組合員の高齢化・減少などについて実りある議論がなされ、議事については全て満場一致で可決承認されました。

大会終了後の懇親会ではビンゴゲームで大いに盛り上がり、今後も加盟単組の交流を深め、情報交換を図っていくことを確認致しました。今後の活動としては、恒例行事である年2回のボーリング大会を予定しております。

北海道地協 事務局長 大星 勇介（NIPPO労働組合）



関東地協

定期大会及びレクリエーション開催

2011年10月22日（土）

に新宿区高田馬場シチズンプラザにおいて、来賓として本部より和久副議長を招き第22回関東地協定期大会を開催し、各単組代議員へ活動報告等を行いました。今年度は半数以上の役員改選があり、ほとんどの役員が経験ゼロからのスタートとなりましたが、「新体制」として、地協及び各単組の活性化に付与していきたいと考えております。ご協力の程よろしくお願い致します。

大会終了後、恒例となりましたボウリング大会を開催し、みなさん仕事を忘れゲームに興じていました。親睦会・表彰式では、各単組代議員より今日は来て良かった等のコメントを頂戴し、また、単組の枠を越えて交流を深める良い機会となりました。

限られた予算ではありますが、今後とも活発な活動を計画しておりますので、皆様もご参加の程よろしくお願い致します。



関東地協 会計幹事 猪原 寛（NIPPO労働組合）

土曜閉所推進運動アンケート結果 (2011年11月)

道建労協では、建設産労懇（建設産業労働組合懇話会）の仲間と共に毎年11月と6月の土曜日を「土曜閉所推進運動協調月間」として、総労働時間の短縮を進める活動しております。今回は『しっかり働きスイッチオフ ゆっくり休んでスイッチオン』をスローガンとして運動を展開いたしました。各単組の各事業所へポスターを配布し意識啓蒙を図るとともに、建設産労懇の仲間と共に共同プレス発表を行い産業全体としての取り組みであることをアピールしました。また、道建労協加盟単組の企業や道建協・日合協などへも訪問し、労使が一体となって取り組んでこそ成果が得られることを訴えました。

以下にアンケート結果を報告いたします。皆様のご協力により今回の回収率は88.5%という高い数値を示し、より信頼性の高い統計を取ることが出来ました。心より感謝申し上げます。

回収率推移 (11月)

単位：%

回収率	大林	大成	東舗	NIPPO	フジタ	前田	三住	合計
2009	99.4	85.0	88.0	59.8	85.5	90.9	97.6	81.4
2010	97.6	91.6	85.0	65.1	88.9	84.1	92.3	81.8
2011	94.0	85.7	73.4	88.0	97.0	86.0	96.5	88.5

単組別回答	事業所数	組合員数	回収率	総組合員
大林	83	814	94.0%	866
大成	119	643	85.7%	750
東舗	18	58	73.4%	79
NIPPO	407	1,404	88.0%	1,596
フジタ	66	160	97.0%	165
前田	220	1,357	86.0%	1,577
三住	60	249	96.5%	258
	973	4,685	88.5%	5,291

閉所率推移

単位：%

閉所率	07年	8年	9年	10年	11年
6月	24.1	25.0	25.6	29.9	25.2
11月	17.9	18.0	20.1	20.2	20.9

休日取得率推移

単位：%

休日取得率	07年	8年	9年	10年	11年
6月	49.5	51.6	59.4	52.9	52.7
11月	44.1	49.5	47.9	50.4	49.1

単組別事業所閉所率

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	事業所数	平均閉所率
大林	14.5	14.5	18.1	15.7	83	15.7%
大成	20.2	17.6	26.9	21.0	119	21.4%
東京舗装	11.1	27.8	22.2	11.1	18	18.1%
NIPPO	25.6	26.3	26.0	25.8	407	25.9%
フジタ	24.2	30.3	33.3	16.7	66	26.1%
前田	4.5	8.6	10.9	5.5	220	7.4%
三住	36.7	43.3	33.3	35.0	60	37.1%
全社	19.5	21.6	22.9	19.4	973	20.9%

単組別組合員休日取得率

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	組合員数	平均取得率
大林	47.2	47.7	51.1	46.6	814	48.1%
大成	47.0	44.5	53.5	47.3	643	48.1%
東舗	25.9	43.1	48.3	27.6	58	36.2%
NIPPO	52.1	53.8	54.2	53.9	1,404	53.5%
フジタ	37.5	43.1	45.6	32.5	160	39.7%
前田	34.3	51.8	54.0	38.4	1,357	44.6%
三住	60.2	69.5	59.4	63.5	249	63.2%
全社	45.0	51.2	53.4	46.7	4,685	49.1%

繁忙期の地域もあるため閉所率としてはほぼ横ばいではありますが、休日取得率が下がった要因としては震災復旧等も考えられます。次に、工事部門と合材部門での結果を示します。

<工事部門（単独工事含む）>

地域別休日取得率をみると中国・四国地区が50%を超えました。繁忙期である北海道・北陸地方や復旧復興中の東北地方の取得率が低調なのは仕方のない面があるものの、その他の地域も総体的に低い結果となりました。労使共により実態に即した対応が求められます。

単組別事業所閉所率（工事）

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	全事業所数	平均閉所率
大林	6.5	6.5	10.9	6.5	46	7.6%
大成	12.0	13.3	20.0	12.0	75	14.3%
東京舗装	0.0	8.3	16.7	0.0	12	6.3%
NIPPO	16.3	16.3	17.2	17.2	203	16.7%
フジタ	23.1	30.8	33.8	16.9	65	26.2%
前田	2.6	7.8	12.1	4.3	116	6.7%
三住	26.8	34.1	29.3	26.8	41	29.3%
全社	13.3	16.1	18.8	13.3	558	15.4%

単組別休日取得率（工事）

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	組合員数	平均取得率
大林	35.9	36.7	39.5	36.0	580	37.0%
大成	38.2	38.0	45.5	38.2	492	40.0%
東舗	17.8	35.6	44.4	24.4	45	30.6%
NIPPO	36.0	38.5	40.8	38.2	714	38.4%
フジタ	37.1	43.4	45.9	32.7	159	39.8%
前田	24.6	43.9	47.3	29.6	848	36.4%
三住	51.6	62.1	51.6	57.4	190	55.7%
全社	33.9	41.3	44.1	36.1	3,028	38.9%

地域別閉所率（工事）

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	平均閉所率
北海道	7.7	7.7	5.1	5.1	6.4%
東北	18.8	18.8	28.1	18.8	21.1%
関東	10.9	12.0	14.9	9.7	11.9%
中部	6.2	16.9	24.6	1.0	13.5%
関西	6.0	14.0	18.0	6.0	11.0%
中国	21.1	21.1	31.6	21.1	23.7%
九州	16.1	17.7	11.3	16.1	15.3%
北陸	10.0	15.0	10.0	15.0	12.5%
四国	34.6	38.5	26.9	42.3	35.6%
全国	13.3	16.1	18.8	13.3	15.4%

地域別組合員休日取得率（工事）

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	平均取得率
北海道	30.5	39.1	37.7	32.5	34.9%
東北	29.9	33.4	36.9	33.1	33.4%
関東	33.1	41.6	44.6	35.7	38.8%
中部	27.7	37.5	41.0	30.1	34.1%
関西	32.1	42.9	46.9	35.2	39.3%
中国	54.8	57.3	63.3	53.3	57.2%
九州	37.0	40.9	40.4	36.1	38.6%
北陸	33.3	37.3	32.0	29.3	33.0%
四国	49.4	50.6	56.5	57.6	53.5%
全国	33.9	41.3	44.1	36.1	38.9%

< 合材部門 >

震災復旧作業下にある東北地区は閉所率がゼロとなり、非常に厳しい環境にあることが窺えます。
やはり工場は地元得意先などの施工に影響されるのか、開けておくことが前提となっているような傾向にあります。ただ地元協会の後押しや、工事部門に比べ比較的交代で休みを取りやすい環境でもあると考えられ、数字上は二人に一人が休日を取得することが出来たという結果となりました。

単組別事業所閉所率（合材）

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	事業所数	平均閉所率
大林	7.1	7.1	10.7	10.7	28	8.9%
大成	7.4	7.4	11.1	7.4	27	8.3%
東京鋪装	40.0	80.0	20.0	40.0	5	45.0%
NIPPO	6.5	5.6	7.4	6.5	108	6.5%
前田	0.0	2.1	2.1	0.0	94	1.1%
三住	33.3	41.7	8.3	25.0	12	27.1%
全社	6.2	7.7	6.6	6.2	274	6.7%

単組別休日取得率（合材）

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	組合員数	平均取得率
大林	49.0	48.0	59.0	45.0	100	50.3%
大成	55.9	48.5	60.3	54.4	68	54.8%
東鋪	33.3	66.7	16.7	16.7	6	33.3%
NIPPO	47.7	52.3	50.3	56.4	149	51.7%
前田	41.5	58.0	58.3	43.5	398	50.3%
三住	69.0	79.3	62.1	58.6	29	67.2%
全社	46	55.6	56.8	47.6	750	51.5%

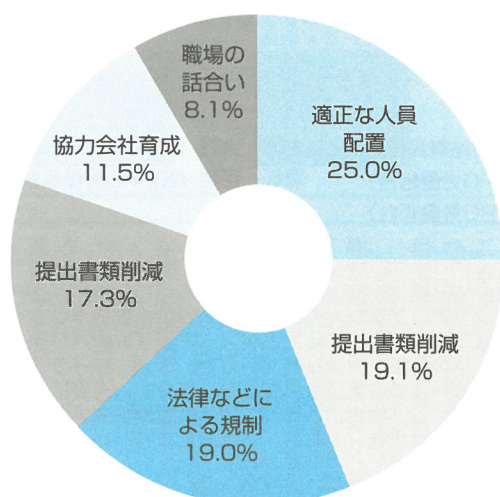
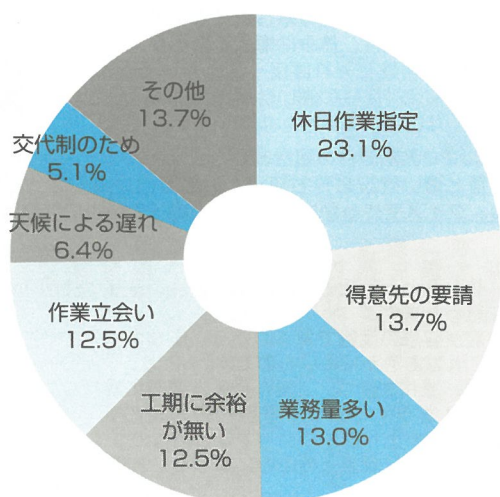
地域別事業所閉所率（合材）

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	平均閉所率
北海道	0.0	5.6	0.0	5.6	2.8%
東北	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0%
関東	4.6	7.7	1.5	1.5	3.8%
中部	3.4	3.4	17.2	1.1	6.9%
関西	0.0	3.2	0.0	3.2	1.6%
中国	13.5	16.2	16.2	18.9	16.2%
九州	13.3	13.3	6.7	8.9	10.6%
北陸	8.3	0.0	16.7	8.3	8.3%
四国	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5%
全国	6.2	7.7	6.6	6.2	6.7%

地域別組合員休日取得率（合材）

	11月5日	11月12日	11月19日	11月26日	平均取得率
北海道	23.1	34.6	23.1	26.9	26.9%
東北	31.0	46.0	50.6	33.3	40.2%
関東	47.4	55.1	56.1	49.1	51.9%
中部	38.9	52.2	58.9	42.2	48.1%
関西	56.6	61.8	68.4	59.2	61.5%
中国	59.1	69.7	74.2	60.6	65.9%
九州	47.4	56.4	48.7	47.4	50.0%
北陸	62.5	62.5	56.3	62.5	60.9%
四国	50.0	66.7	58.3	41.7	54.2%
全国	46	55.6	56.8	47.6	51.5%

閉所出来なかった理由については順番に若干の変動があったものの依然と殆ど変わりませんが、『業務量が多い』とする組合員が増えました。また、休日取得・時短推進に望むものとして、『適正な人員配置』がやはりトップでした。閉所理由も含め一人一人の負荷がかなり重くなっており、自助努力ではどうにもなら無い状況にあることを示していると言えます。各単組と企業との話し合いや発注者側への要請という形で、道建労協として改善を進めていきたいと考えています。



単組代表者会議

2011年10月12日（水）に単組代表者会議を開催しました。議題は各単組における時短・休日取得への取り組み、労働時間等設定改善委員会の運営状況、そして今後の重要な検討課題となり得る若年者離職と産業魅力化への取り組みなどでした。

時短・休日取得については、各単組とも目標と実態の乖離に頭を悩ませている状況であること、さらに企業によってはまだ活動に温度差があることなど、以前からの課題が相変わらず横たわっているのが改めて示されました。しかしながら、どの単組も労使の話し合いの場を以前より増やすとともに、労働時間の見える化を推進したり、会社での社長表彰に事業所の休日取得状況を評価対象にするなど、現状を少しでも改善する努力をされており、状況を看過せずに活動しております。

今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



物知りクイズ

道路舗装業界の歴史を紐解いてみると、以外にもその歴史が浅いことに驚きます。今回は皆様と業界の歴史について少しだけ勉強してみたいと思います。

というわけで、今回のテーマは「道路整備の歴史」です。

Q1 日本の道路は明治維新後も脆弱なものでした。それというのも、明治政府は速度と輸送力に優れた鉄道の建設を優先したからです。そのようななか、明治10年代に県民に労働力と費用供出を強制し、「鬼県令」として恐れられた県令（県知事）がいます。この人は福島・山形両県を結ぶ全長約50kmの当時では稀な馬車通行が可能な新道を建設しました。さて、この人は誰でしょう。

- ① 三島通庸 ② 山縣有朋
③ 黒田清隆 ④ 鮫島 武之助

Q2 明治末期になっても道路整備は著しく不十分なものでした。当時、日本陸軍が軍用トラックで東京・青森間往復の長距離走行試験をしたところ、江戸時代と大差ない道幅、ぬかるんで急勾配な道、橋が架かっていない川に終始悩まされたそうです。

それではここで問題です。当時全線開通していた東北本線の列車であれば、東京・青森間を片道2日間で走破できましたが、この軍用トラックは一体何日間かかったのでしょうか。

- ① 5日 ② 12日 ③ 18日 ④ 24日

■ 物知りクイズ当選者

PAVE第82号「物知りクイズ」は、土曜閉所推進運動にちなんで「労働」と「休日」に関する問題が出されました。問題が難し過ぎた感も否めず、正解者は若干5名という結果となりました。よって今回は、正解者全員が当選者となります。

また、多くの組合員の方から回答時に貴重なご意見を寄せていただきました。今後も皆様にご愛読いただくPAVE作成並びに道建労協の活動の参考にさせていただきます。

なお、当選者の粗品の受け渡しにつきましては、各単組の本部より送付させていただきます。

当選者

松島 良和（大林道路職員組合） 山地 大輔（大成ロテック社員組合）
土肥 真也（NIPPO労働組合） 黒坂 正昭（NIPPO労働組合）
新井 理恵（NIPPO労働組合）

編・集・後・記

昨年はオーストラリア、ブラジルの洪水に始まり、パキスタン、タイでも。またアイスランド、チリでは火山噴火、アメリカのハリケーンや日本、フィリピンの台風、アメリカ、トルコ、ニュージーランドの大地震、そして何とんでも東日本大震災と、世界的に天災に見舞われた大変苦難な年でした。被害にあわれた地域の早期復興と、そこに生きる人々に早く平穏な生活（くらし）が訪れるよう、ただただ祈るばかりです。

さて、今年の干支は“辰”です。十二支の中で唯一実在しない

Q3 結局、日本の道路整備が本格的に始まるのは第二次世界大戦後になりますが、日本が道路整備を進めるきっかけとなったとされる1956年にアメリカ人が作成した日本の道路事情についての報告書があります。さて、この報告書の名前はなんでしょう。

- ① ワトキンス・レポート ② ワトソン・レポート
③ ウィルキンソン・レポート ④ ライナー・レポート

Q4 高度成長期以降、日本では全国的に高水準の道路整備が行き渡りました。現在では、ほぼ全国に高速道路網が整備されています。

それでは問題です。平成21年の一般国道の舗装率は91.2%となっておりますが、昭和30年代（1960年頃）の一般国道の舗装率は何%だったのでしょうか。

- ① 5.7% ② 13.6% ③ 20.2% ④ 31.4%

〈応募方法〉

下記を明記してお送りください。正解者の中から抽選で粗品をお送りします。たくさんのご応募をお待ちしております。

- 解答
- 住所（会社宛の場合は会社名もご記入ください）
- 氏名 ● 所属単組名
- 今回の紙面でよかった点、気づいた点がありましたらご意見も是非お寄せください。
- 締め切り 2/29（水）
- 宛先 〒141-8665

東京都品川区大崎1-11-3 前田道路労働組合内

道路建設産業労働組合協議会「PAVE」宛

FAX 03-5487-0051 E-mail:kumiai@maedaroad.co.jp

※次号は9月発行の予定です。

◆ 組合員からのご意見（一部を掲載）

（NIPPO労働組合の組合員の方より）

6月の土曜閉所運動の結果が記載されていましたが、なかなか現場では土曜休日というのは難しいのだなと感じました。舗装会社全体の課題であることをあらためて認識させられました。

（大林道路職員組合の組合員の方より）

昔に比べれば、休みは増えているが、個人の仕事量も増えているようです。全体でみれば良くなっていると思いますが、現場で働く人は、昔に比べ密度の濃い仕事を日々こなしており、大変さは昔も今も変わらないような気がします。

（NIPPO労働組合の組合員の方より）

昔と違い建設業界も随分と労働環境が良くなってきているんですね。クイズをきっかけにいろいろ調べて勉強になりました。

“龍”という動物ですが、何かと良い意味で使用される事が多いように思われます。

龍が空想の産物であるのなら、形なきものを創造する我々建設産業もこれにあやかりたいものです。

悪い流れは断つ。（辰）企業は順調に成り立つ。（辰）そして欲を言えばもうすぐ始まる春闘……昇龍の如く定昇、昇給さらには賞（昇）与も上り調子になってほしいものです。

ここだけは想像上のものにならないと信じて……。

（フジタ道路職員組合 日暮 猛）